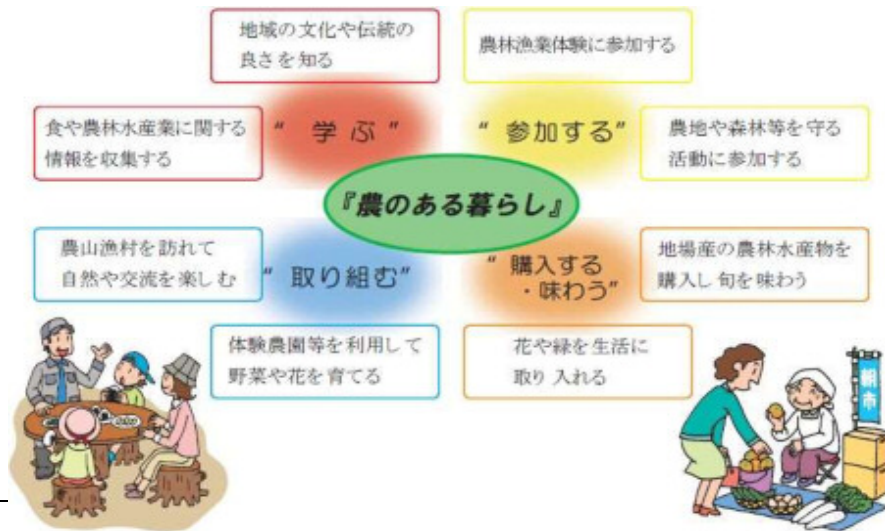


Ⅲ 「農のある暮らし」の実践例

農林水産業が果たしている役割を理解し、その大切さや農林水産物の価値を知ることは、知らず知らずのうちに地域の農林水産業を応援したり、自らの健康的な生活につながったりします。

そこで、県民のみなさんに農林水産業に親しむ活動を積極的に生活の中に取り入れていただく「農のある暮らし」の実践を進めています。



親子でお料理！

北名古屋市は、平成27年6月27日（土）、市健康ドームで、親子料理教室を開催しました。この教室は、市民に食育を推進するため、幼児、児童を対象とした親子の参加者を募集し、11組の26名が参加しました。講師は、食生活改善推進協議会の会員が務めました。

当日は、講師から「安全第一」の注意と指導を受けながら、「手づくりピザ」を4班に分かれて、野菜たっぷりのピザづくりに挑戦しました。野菜の薄切りに活躍するイクメンパパ、トマトやピーマン、たまねぎなど具材載せに率先する女子児童と、それぞれが大活躍し、完成したピザは親子全員で味わいました。親子が一緒に料理を作ることで、食の大切さを学ぶよい機会となりました。



野菜の薄切りに挑戦



みんなで具材載せ

農地に現れた「三英傑」



田んぼアート「三英傑」

多面的機能支払事業の活動組織である「茶屋新田地域資源保全隊」は、田んぼアート実行委員会の構成員として名古屋市港区で田んぼアートを行っています。

田んぼアートとは葉の色の異なる古代米などの稲を植えて、田んぼで絵を描く取り組みです。茶屋新田では田んぼアートを平成 23 年度から行っており、平成 27 年度は「三英傑（織田信長、豊臣秀吉、徳川家康）」が田んぼの中に描かれました。

田んぼアートには多くの市民が鑑賞に訪れ、田植えや稲刈りなどの体験イベントに参加しています。この取組は、農地の転用が進む都市部において地域住民が農業に親しむことのできる貴重な機会となっています。

原木シイタケのうまみを手軽に使えるよう加工

一宮市の原木シイタケ生産者はシイタケの有効利用方法を模索し、醤油醸造メーカーと共同でシイタケ醤油を開発し、インターネット等で自ら販売をしています。

このシイタケ醤油はシイタケのうまみエキスが醤油に溶け出し、おいしいと好評です。

この事業が軌道にのれば、生産者の収益拡大による経営安定化が期待できます。

そこで、林務課では、シイタケの生産技術や流通だけでなく、このような新たな取り組みにも積極的にサポートしています。



原木シイタケ栽培舎



シイタケ醤油のラインナップ

名古屋コーチン卵の直売支援

名古屋コーチン発祥の地である小牧市では、養鶏農家2戸が卵用名古屋コーチンを飼育しています。農業改良普及課は、名古屋コーチン卵の販売拡大を図るためPR活動を支援しました。

小牧市商工会議所では、飲食店や加工業者が中心となり、「名古屋コーチンプロジェクト」に取り組んでおり、名古屋コーチンのPRキャラクター「こまちゃん」を作成して、PR活動に活用しています。

今回、農業改良普及課では、小牧市で名古屋コーチンの卵を直売で販売している養鶏農家2戸を対象に、本プロジェクトで活用しているキャラクター名を使って、名古屋コーチンの卵を「こまちゃん卵」と命名して、販売することをすすめてきました。

その結果、養鶏農家1戸で、商品名を「こまちゃん卵」と明記した新たなオリジナルパックのラベル作成をし、直売所での販売促進への活用を始めました。



小牧産名古屋コーチン卵を「こまちゃん卵」と命名



IV 施策体系ごとの目標達成状況

施策体系	施策目標	2015年度 目標値	2015年度 実績	達成率 (%)
安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保 柱1	(1) 活かすあいちの農林水産業	「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」のモデル事例の育成	5年間で5モデル以上	8モデル ● 160.0
	(2) 意欲ある人が伸びる農業の実現	基幹経営体の育成	280経営体 (241経営体)	271戸 ● 96.8
		新規農業就業者の確保	5年間で85人	149人 ● 175.2
		耕作放棄地の再生	農用地区域を中心に 5年間で125ha	236ha ● 188.8
		自然災害に強い農地の整備	5年間で 1,270ha	1,615ha ● 127.2
	(3) 食品の安全・安心の確保	「農産物環境安全推進マニュアル」をはじめとしたGAP手法導入組織・法人等数	14産地(6産地)	15(16)産地* ● 107.1(114.3)
		JAS法に基づく表示状況調査の実施	毎年322か所	298か所 ● 92.5
県産農林水産物の適切な消費と 柱2	(1) 食や農林水産業に対する県民の理解と活動の促進	農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合(名古屋市を除く)	75%(50.4%)	56.5% ● 75.3
	(2) 県産農林水産物の消費と利用の促進	「いいともあいち運動」を知っている人の割合	50%(39.9%)	— (調査制度廃止のため把握不能) ● —
		産地直売所等の交流施設を利用する人数	6,278千人/年 (5,762千人/年)	5,446千人 ● 86.7
自然災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保 柱3	(1) 森林等が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮	農地等の保全向上活動を実施する面積	毎年2,459ha	3,797ha ● 154.4
		県民との協働・連携により農地等で生物多様性の保全活動を実施している組織数	15組織(14組織)	15組織 ● 100.0
		生物多様性の保全や環境に配慮した農業用施設の整備地域数	21地域(15地域)	34地域 ● 161.9
	(2) 災害に強く安全で快適な生活環境の確保	ため池や排水機場の改修(5年間で4か所)などにより洪水や地震被害のリスクから守られる住宅戸数	5年間で 27,700戸	30,350戸 ● 109.6
		治山施設の整備により山地災害に対する防災機能の向上が図られる面積	5年間で120ha	155ha ● 129.2
	(3) 環境への配慮と資源の再生・循環利用を図る取組の強化	農業分野におけるCO2排出量の削減	2015年度における年間排出量の削減 1,100トン	274ト ● 24.9

2015年度目標値の欄の()内は基本計画策定時の現況値

備考欄の ● 単年度値、● 各年度までの累積値、● 各年度における現況値で、実績数値の表示区分
達成率=2015年実績/目標値

* GAP導入した産地の合併があった



愛知を食べよう いいともあいち

食と緑の尾張地域レポート ' 16
(平成27年度 of 取組報告)

平成28年6月

愛知県尾張農林水産事務所
〒460-0001 名古屋市中区三の丸二丁目6-1
電話(052)961-1597(農政課直通)
E-mail owari-nourin@pref.aichi.lg.jp
ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/nourin-owari/>

